

## 努力事項解説 その4 (中学校音楽)

民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱や和楽器による表現活動などの指導の充実を図り、生徒が伝統音楽のよさを味わうことができるように工夫しましょう。

ねらいは

**生徒が、日本の伝統音楽のよさを味わい、  
我が国の音楽文化を尊重する態度を養うこと**

です。民謡や長唄などの伝統的な歌唱の技能を身に付けたり、和楽器の演奏方法に習熟したりすることが直接のねらいではありません。

生徒に、日本の伝統音楽のよさを味わわせるために、以下のことに配慮していきましょう。

### 1 我が国の伝統的な歌唱の特徴を感じ取らせましょう。

我が国の伝統的な歌唱の声には、次のような特徴があります。

発声の仕方（直線的な発声）、節回し、コブシ、産字など

これらについて、例えば、次のような指導を行い、興味・関心を高め、よさを味わわせていきましょう。

- (1) 声の音色（直線的な発声）や装飾的な節回しやコブシに焦点を当てて西洋の音楽と比較鑑賞させて、違いを感じ取らせ、それを生かして、実際に声を出させてみましょう。
- (2) 視聴覚機器を活用して、伝統的な歌唱の場면을映像で鑑賞させることで、姿勢や表情、口の開け方等に関心をもたせましょう。
- (3) 伝統的な歌唱に習熟した地域の指導者や演奏家とT・T指導を行い、生の演奏を間近で聴かせ、興味・関心をもたせましょう。また、実際に指導を受けさせてみましょう。

## 2 和楽器の特徴を感じ取らせましょう。

和楽器には、主に次のような特徴があります。

独特の音色、独特の響き、独特の奏法、表現力の豊かさや繊細さ

和楽器といっても様々なものがありますが、例えば、箏や三味線、篠笛等が用いられることが多いようです。これらについて、例えば、次のような指導を行い、興味・関心を高め、よさを味わわせていきましょう。

- (1) 箏などの独特の音色や響きに焦点を当てて、例えば、ハープなどの西洋の楽器の音色と比較し違いを感じ取らせ、それを生かして、実際に演奏させてみましょう。
- (2) 箏や三味線等の技能に習熟した地域の指導者や演奏家とT・T指導を行い、生の演奏を間近で聴かせ、興味・関心をもたせましょう。また、実際に指導を受けさせてみましょう。

## 3 言葉と音楽との関係、姿勢や身体の使い方について配慮しましょう。

我が国の伝統的な音楽の特徴に「言葉と音楽との関係」「姿勢や体の使い方」があります。次のようなことに配慮して指導し、伝統音楽のよさを味わわせるようにしていきましょう。

- (1) 言葉と音楽の関係
  - 日本語固有の響き（母音、子音の味わい）を意識させましょう。
  - 言葉のまとまり、リズム、抑揚、高低アクセント、発音、音質によって生み出される「旋律の動きやリズム」、「間」、「声の音色」を意識させましょう。  
※「間」とは、邦楽・舞踊・演劇などで、拍と拍、動作と動作、せりふとせりふなどのあいだの時間的間隔のことです。
- (2) 姿勢や体の使い方
  - 長唄や地歌、箏や三味線などは、正しい座り方で演奏することで伝統的な音楽の世界を感じさせるようにしましょう。
  - 篠笛や尺八をはじめ、声や楽器を合わせる際の息づかいや、身体の構えを意識することで、独特な間が生み出されることを意識させましょう。



今回は、小学校の努力事項「唱歌や民謡、郷土に伝わるうたや、鑑賞教材における和楽器の音楽を含めた我が国の音楽などの指導の充実を図り、児童が伝統音楽のよさを味わうことができるように工夫しましょう。」について考えていきます。

10月4日（金）頃アップする予定です。